

# 都道府県別にみた死亡の状況

—平成 12 年都道府県別年齢調整死亡率の概況—

## 目 次

1. 年齢調整死亡率について .....	1
2. 死亡（全死因）の状況	
(1) 全国の死亡（全死因）の状況の年次推移 .....	3
(2) 都道府県別にみた死亡（全死因）の状況 .....	4
(3) 都道府県別にみた死亡（全死因）の状況の年次比較 .....	8
3. 三大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）による死亡の状況	
(1) 三大死因による死亡の状況の年次推移 .....	11
(2) 都道府県別にみた悪性新生物による死亡の状況 .....	12
①平成 12 年の状況          ②年次比較	
(3) 都道府県別にみた心疾患による死亡の状況 .....	14
①平成 12 年の状況          ②年次比較	
(4) 都道府県別にみた脳血管疾患による死亡の状況 .....	16
①平成 12 年の状況          ②年次比較	
4. 各死因による死亡の状況（都道府県別） .....	18
(1) 胃の悪性新生物      (2) 肺の悪性新生物      (3) 急性心筋梗塞	
(4) 脳梗塞              (5) 肺炎                  (6) 不慮の事故	
(7) 自殺                  (8) 腎不全                (9) 糖尿病	
(10) 肝疾患	
統計表 .....	28

## 厚生労働省大臣官房統計情報部

担当係：人口動態・保健統計課 計析第一係

電 話：03-5253-1111（内線 7470）

03-3595-2812（ダイヤルイン）

この資料は、厚生労働省ホームページに掲載しています。

掲載場所：「統計情報」→「最近公表の統計資料」

→「平成 12 年都道府県別年齢調整死亡率の概況」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/other/00sibou/index.html>

## 1. 年齢調整死亡率について

都道府県別に、死亡数を人口で除した通常の死亡率（以下「粗死亡率」という。）を比較すると、各都道府県の年齢構成に差があるため、高齢者の多い都道府県では高くなり、若年者の多い都道府県では低くなる傾向がある。このような年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率（人口10万対）である。この年齢調整死亡率を用いることによって、年齢構成の異なる集団について、年齢構成の相違を気にすることなく、より正確に地域比較や年次比較をすることができる。

平成12年都道府県別年齢調整死亡率は、平成12年人口動態統計死亡数を平成12年国勢調査人口で除した年齢階級別粗死亡率及び「昭和60年モデル人口」（昭和60年の国勢調査人口を基に補正した基準人口）を用いて、次式で求められる。

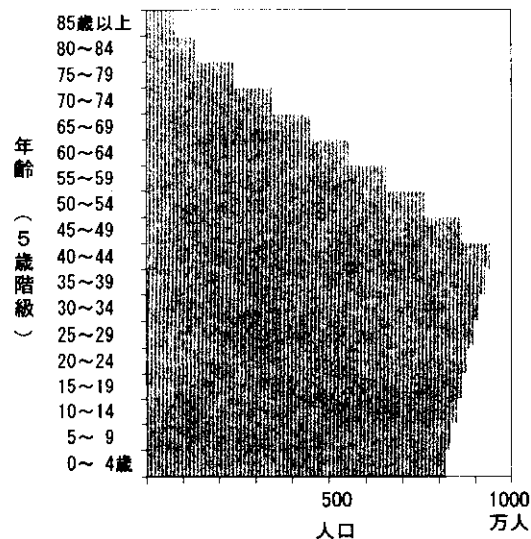
$$\text{平成12年都道府県別（死因別）年齢調整死亡率} = \frac{\left[ \begin{array}{l} \text{平成12年都道府県別} \\ \text{年齢5歳階級別（死因別）粗死亡率} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{「昭和60年モデル」} \\ \text{人口の当該年齢階} \\ \text{級の人口} \end{array} \right] \text{の各年齢階級の総和}}{\text{「昭和60年モデル人口」の総数}}$$

死因別、都道府県別の年齢調整死亡率は、「昭和60年モデル人口」を基準人口として昭和35年から5年ごとに算出しており、単位はすべて人口10万対で表章している。

なお、年齢調整死亡率の基準人口については、昭和60年までは全国の年次比較には昭和10年人口、都道府県の比較には昭和35年人口を使用してきたが、いずれも高齢者の占める割合が極めて低く、最近の人口構成とは乖離していたため、平成2年に「昭和60年モデル人口」を採用した。平成12年についても同じ基準人口を用いている。

### 基準人口 —昭和60年モデル人口—

年齢	基準人口
0～4歳	8,180,000
5～9	8,338,000
10～14	8,497,000
15～19	8,655,000
20～24	8,814,000
25～29	8,972,000
30～34	9,130,000
35～39	9,289,000
40～44	9,400,000
45～49	8,651,000
50～54	7,616,000
55～59	6,581,000
60～64	5,546,000
65～69	4,511,000
70～74	3,476,000
75～79	2,441,000
80～84	1,406,000
85歳以上	784,000
総数	120,287,000






注：昭和60年モデル人口は、昭和60年国勢調査人口を基礎に、ベビーブームなどの極端な増減を補正し、四捨五入によって1000人単位としたものである。






## 日本地図の階級分けについて

日本地図については、次のように3階級及び5階級に分けている。

### 3階級の場合

-  年齢調整死亡率が47都道府県平均から統計的にみて低いと判断される県  
(47都道府県平均から標準偏差以上低い県)
-  年齢調整死亡率が47都道府県平均から統計的にみて同程度と判断される県  
(47都道府県平均から標準偏差以内の県)
-  年齢調整死亡率が47都道府県平均から統計的にみて高いと判断される県  
(47都道府県平均から標準偏差以上高い県)

### 5階級の場合

-  同左
-    } 1/3に分けている
-  同左

注：凡例の ( ) の数字は県の数である。

## 2. 死亡（全死因）の状況

### (1) 全国の死亡（全死因）の状況の年次推移

平成12年の全国の年齢調整死亡率（人口10万対、以下「死亡率」という。）は、男634.2、女323.9である。平成7年に比べ、男は85.4ポイント、女は60.8ポイント低下している。昭和22年以降低下傾向は続いているが、近年では男女とも緩やかな低下となっている。（図1）

また、粗死亡率（人口10万対）の傾向をみると、男女とも昭和40年代後半から50年代までは、ほぼ横ばいとなっていたが、60年代に入ってから上昇している。死亡率が低下しているのに対して、粗死亡率が上昇しているのは高齢化の影響による。（図2）

図1 年齢調整死亡率（全死因）の年次推移

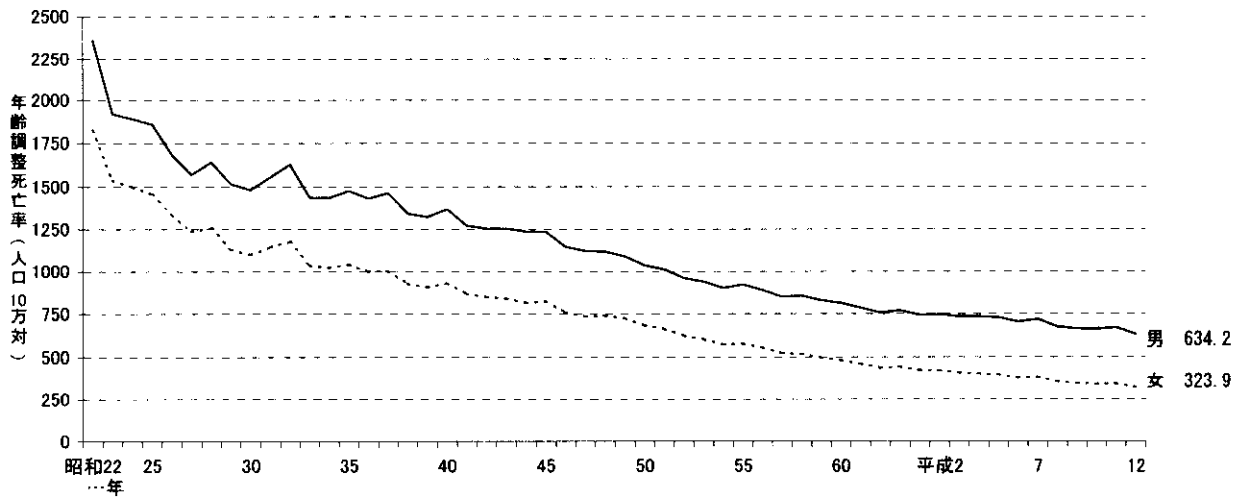
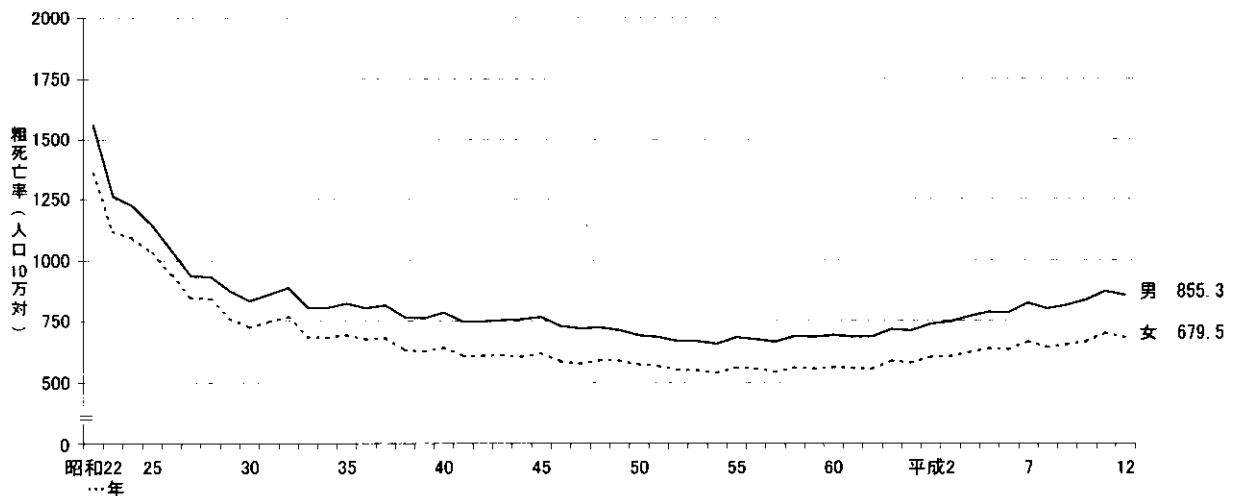


図2 粗死亡率（全死因）の年次推移



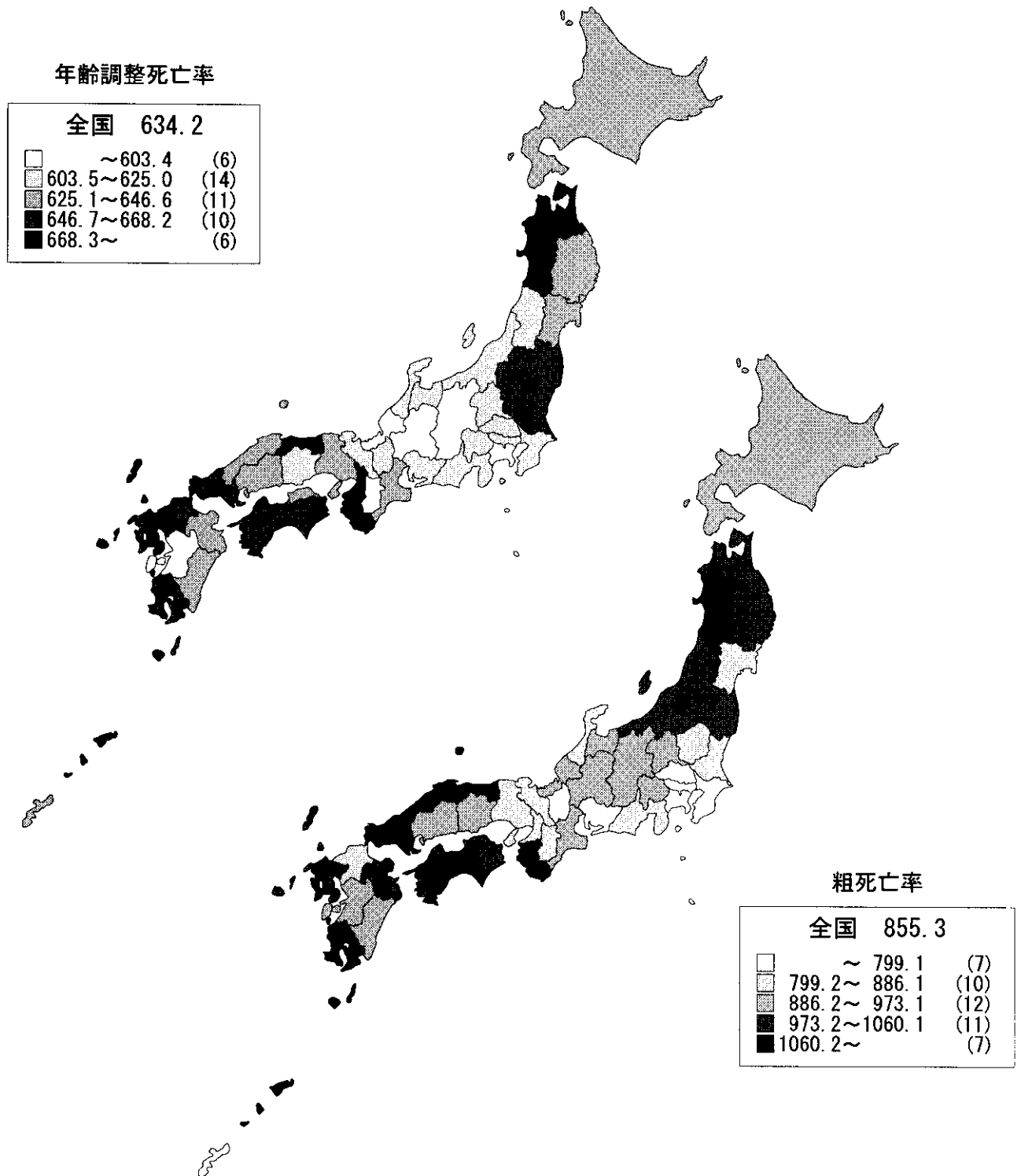
(2) 都道府県別にみた死亡（全死因）の状況

平成12年の死亡率（全死因）を都道府県別にみると、男の低い県は長野、福井、岐阜、熊本、神奈川等となっており、高い県は青森、秋田、大阪、和歌山、佐賀等となっている。

粗死亡率（全死因）を都道府県別にみると、低い県は埼玉、神奈川、沖縄、千葉、愛知等となっており、高い県は秋田、島根、高知、山口、和歌山等となっている。

(図3-1)

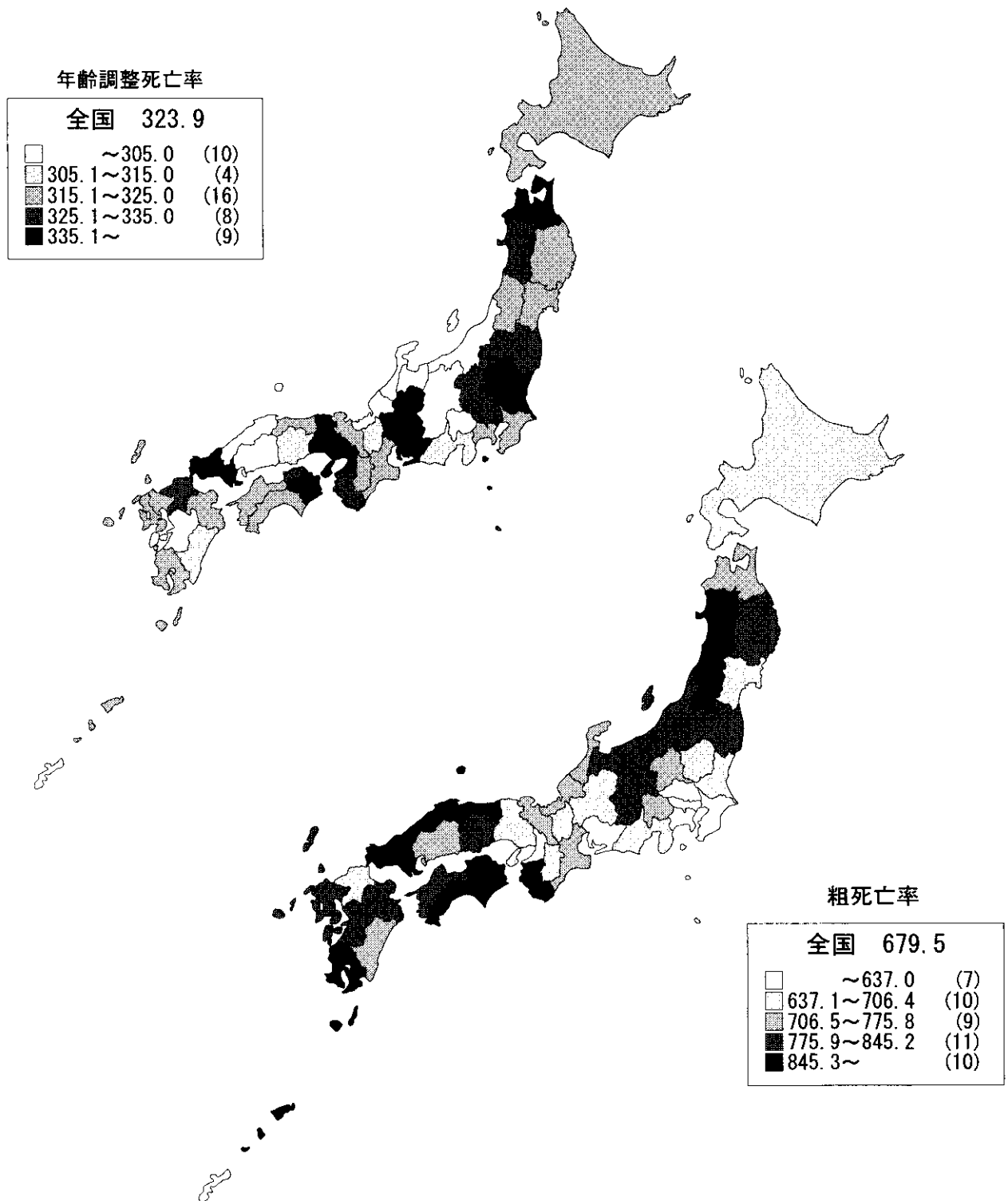
図3-1 都道府県別年齢調整死亡率と粗死亡率（全死因）の比較・男-平成12年-



女の死亡率（全死因）を都道府県別にみると、低い県は島根、沖縄、長野、福井、新潟等となっており、高い県は大阪、青森、栃木、愛知、徳島等となっている。

粗死亡率を都道府県別にみると、低い県は埼玉、神奈川、沖縄、千葉、愛知等となっており、高い県は高知、山口、徳島、島根、秋田等となっている。（図3-2）

図3-2 都道府県別年齢調整死亡率と粗死亡率（全死因）の比較・女—平成12年—



平成12年の死亡率について都道府県別に男女の分布状況を見ると、男の死亡率の高い県は女の死亡率も高く、男の死亡率の低い県は女の死亡率も低い傾向があり、男女の死亡率には相関がみられる。特徴的な県をみると、青森は女に比べて男の死亡率が高く、岐阜は逆になっている。（図4-1）

また、平成7年（白抜き）に高かった県をみると大きく死亡率が低下しているのがわかる。（図4-2）

図4-1 都道府県別年齢調整死亡率の男女の分布状況 —平成12年—

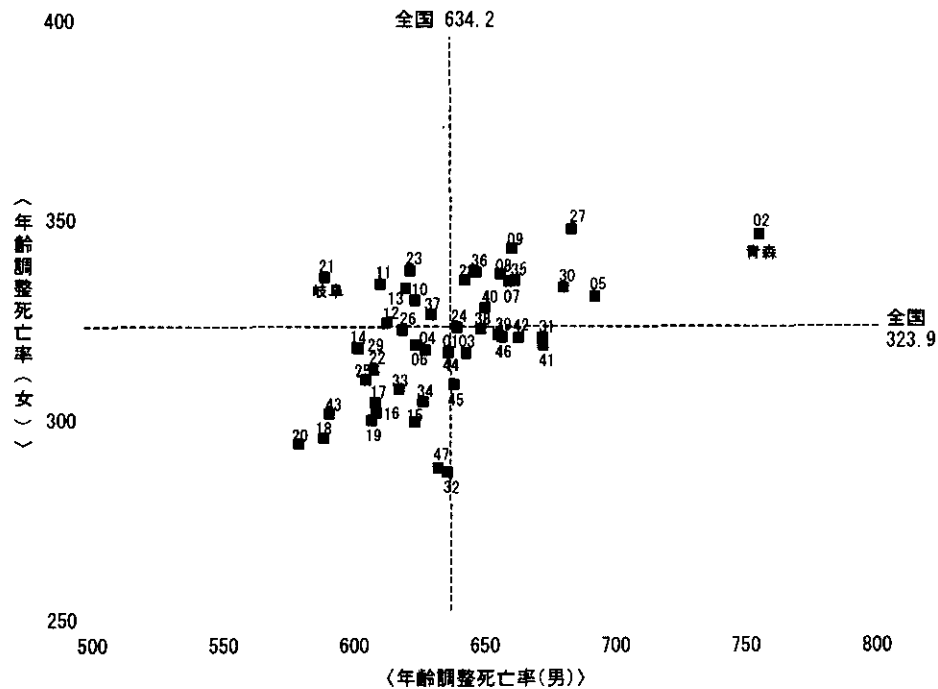
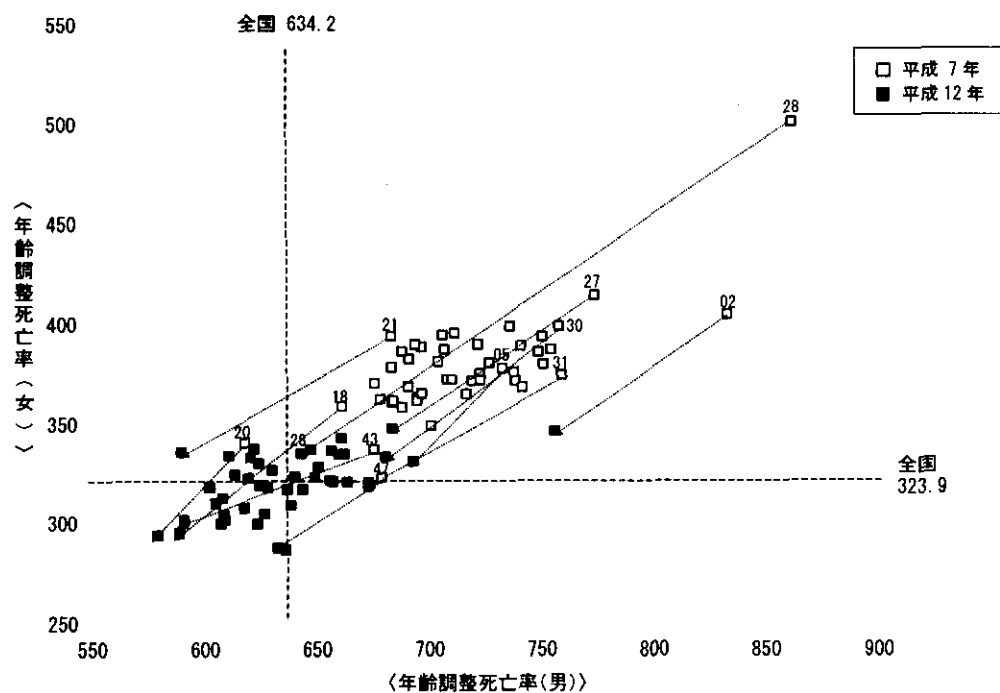


図4-2 都道府県別年齢調整死亡率の男女の分布状況 —平成7・12年—



01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	
滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	

平成7年と12年の死亡率について都道府県別の分布状況を見ると、男は青森が兩年とも高く、長野は低くなっている。秋田は全体の動きに比べると減少が小さくなっている。また、女は大阪、青森で兩年とも高く、沖縄が低くなっている。

なお、兵庫については平成7年に震災があったため、注意が必要である。

(図5-1, 図5-2)

図5-1 都道府県別年齢調整死亡率の男の分布状況 —平成7・12年—

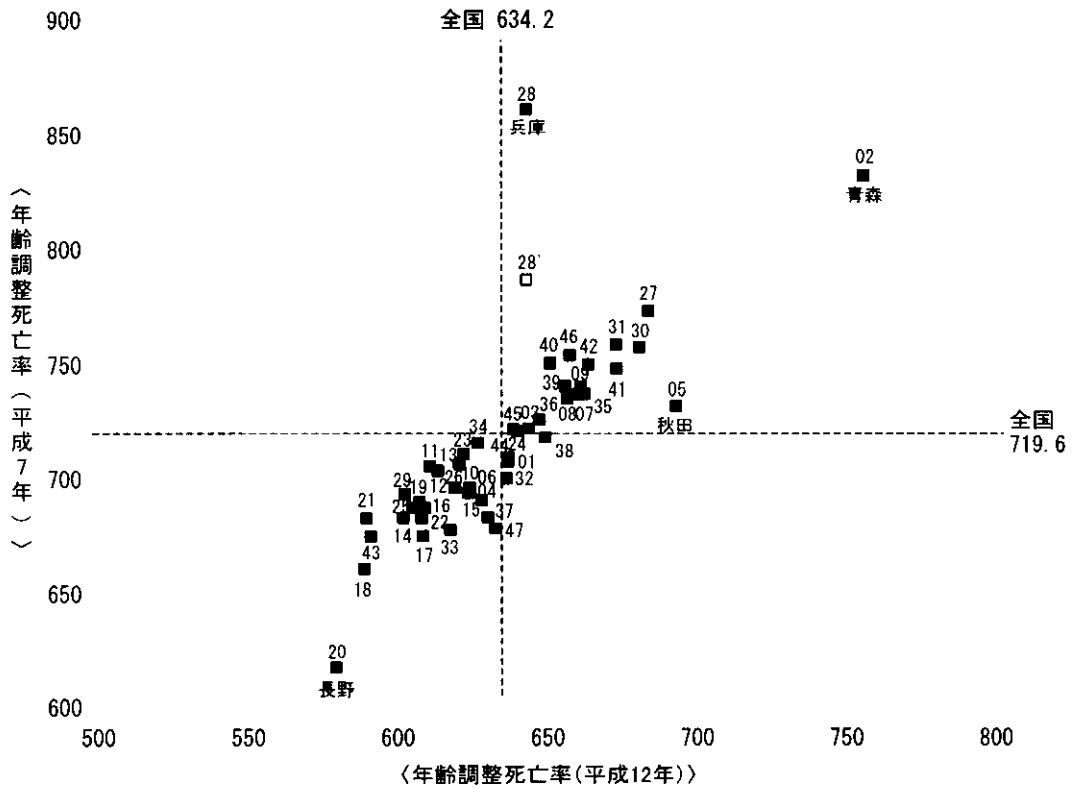
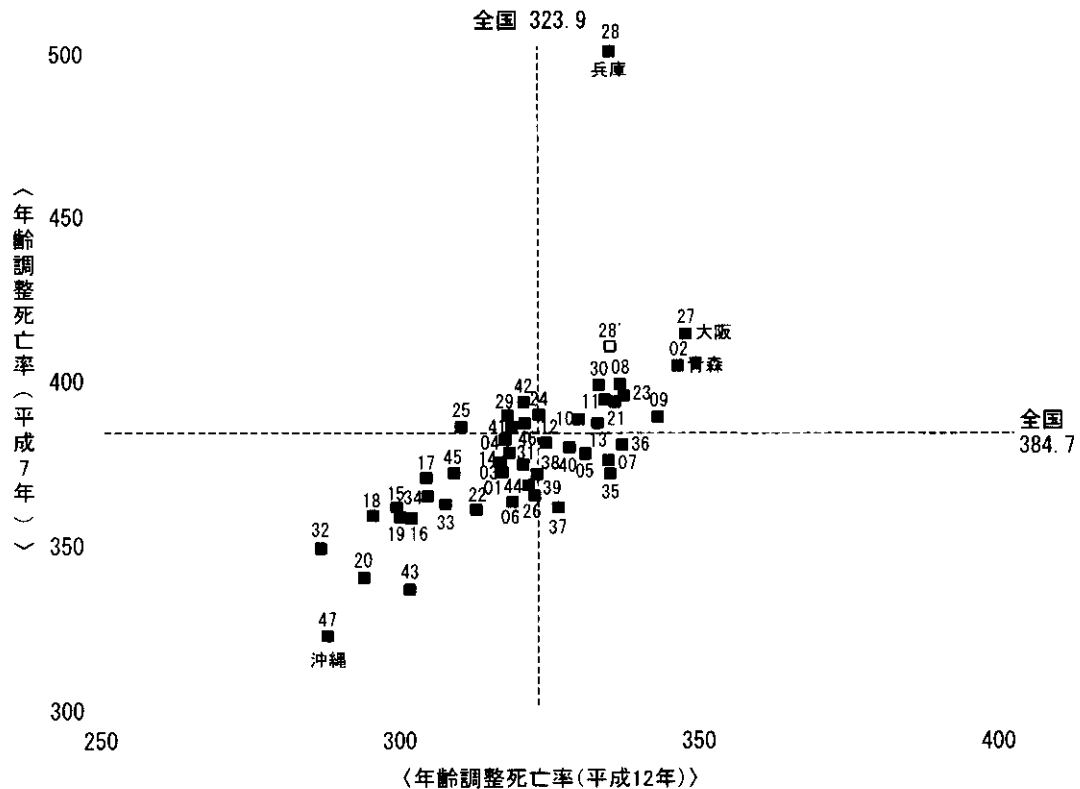


図5-2 都道府県別年齢調整死亡率の女の分布状況 —平成7・12年—



注：兵庫県の死亡率（□28'）は震災による影響を除去した数値である。

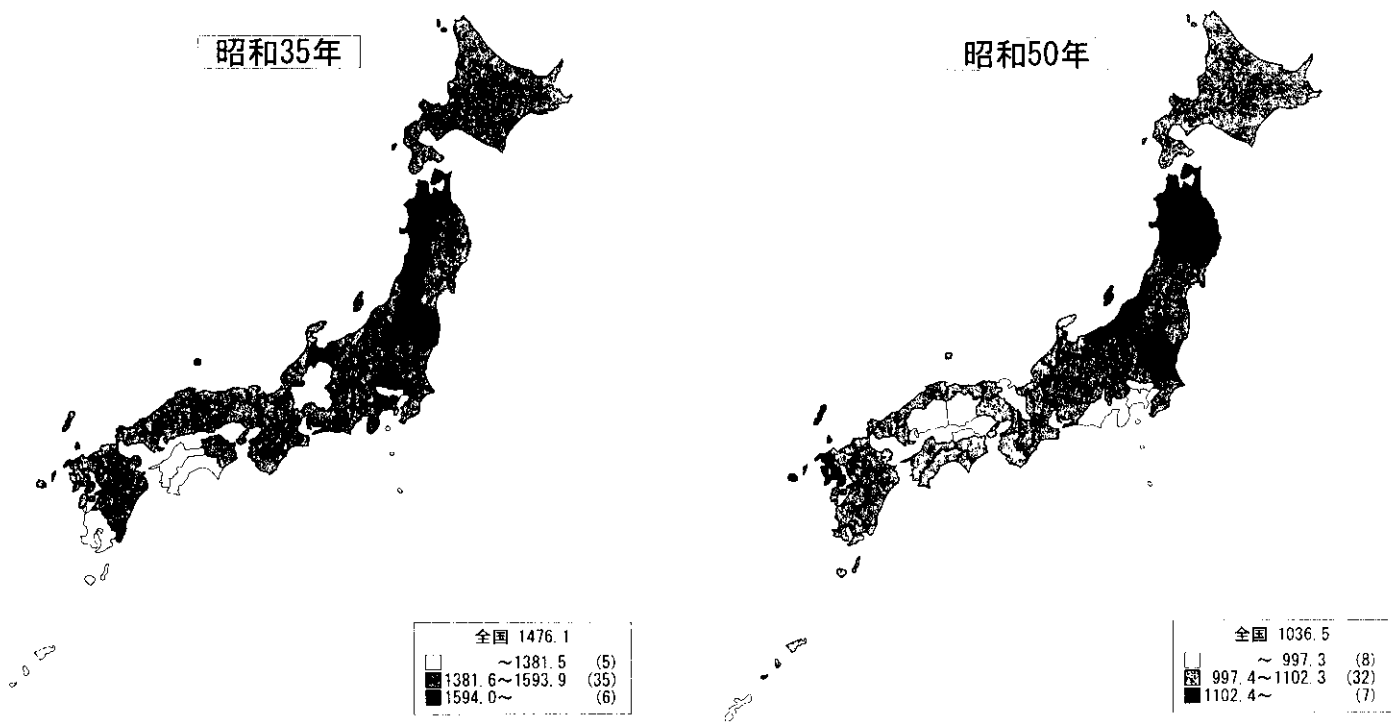


(3) 都道府県別にみた死亡（全死因）の状況の年次比較

都道府県別死亡率（全死因）を年次別にみると、男女とも昭和35年には西日本に死亡率の低い県が多く、東日本を中心に死亡率の高い県が多くなっていましたが、死亡率の全国的な低下にともなって顕著な地域傾向もみられなくなっており、死亡率の高い県も全国的に分散している。

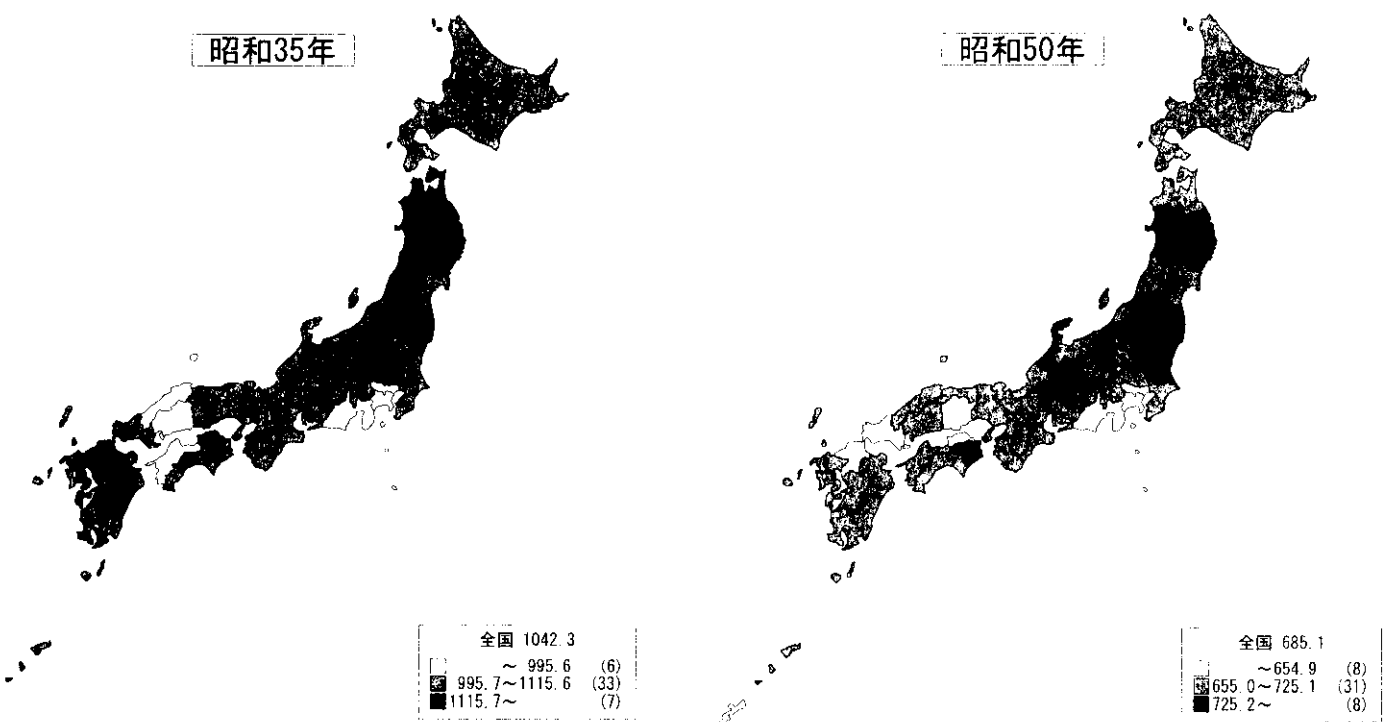
(図6-1, 図6-2)

図6-1 都道府県別年齢調整死亡率の年次比較・男



注：昭和35年には沖縄を含まない。

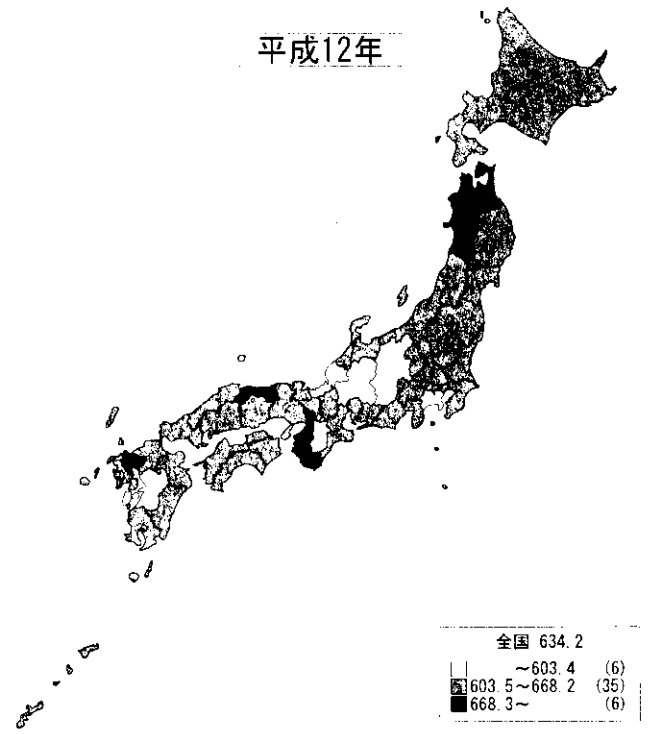
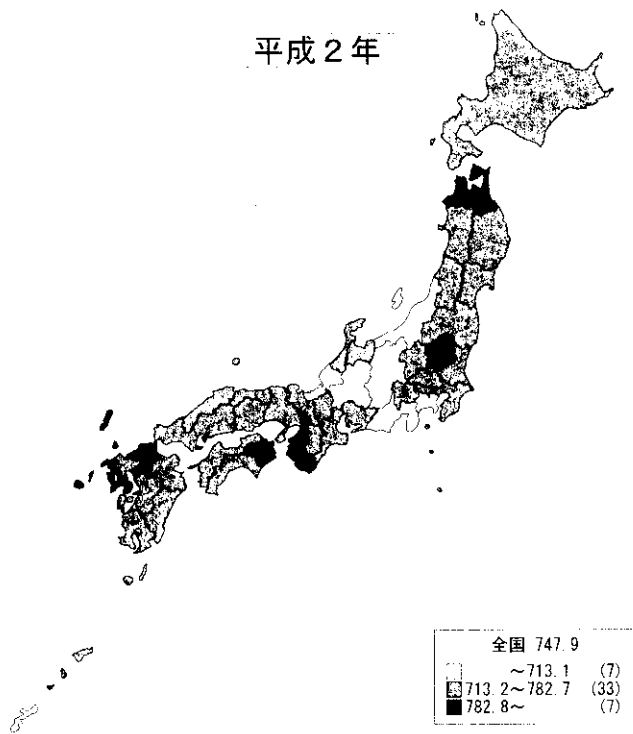
図6-2 都道府県別年齢調整死亡率の年次比較・女



注：昭和35年には沖縄を含まない。

その理由として、東高西低傾向の強い脳血管疾患の死亡率が、全国的に大幅に低下し、差が小さくなってきていることがあげられる。

男



女

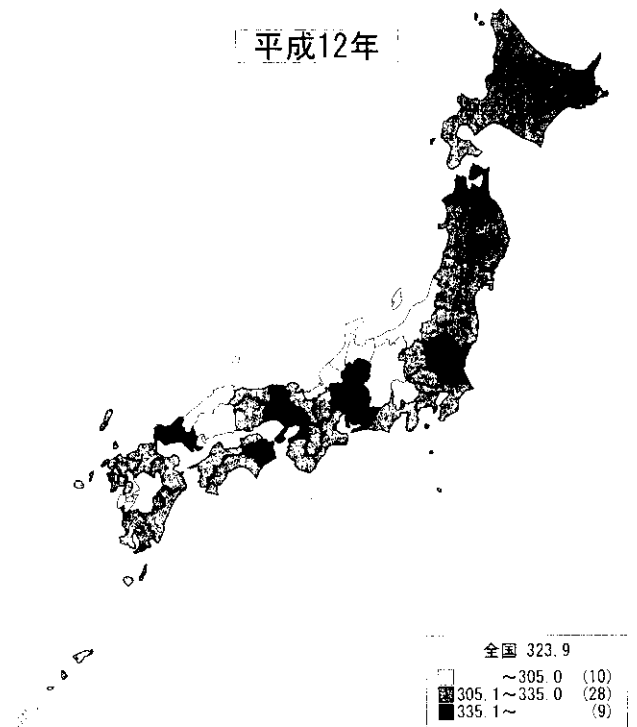
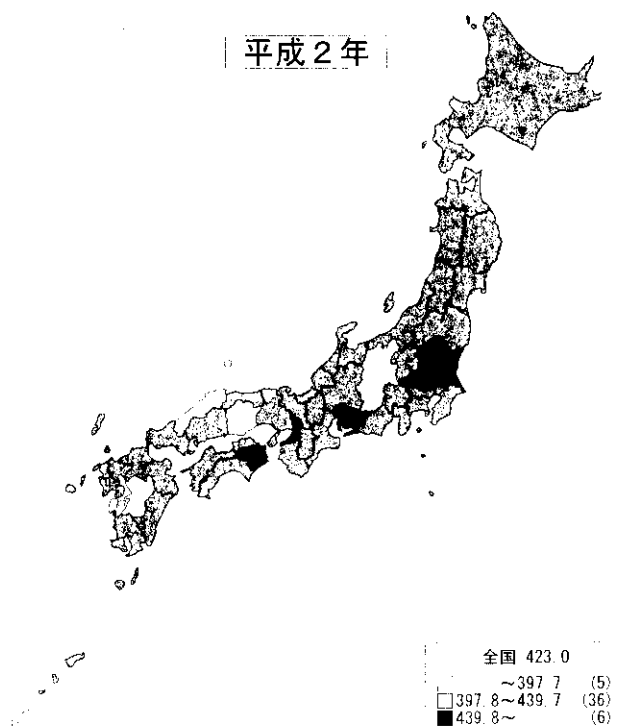
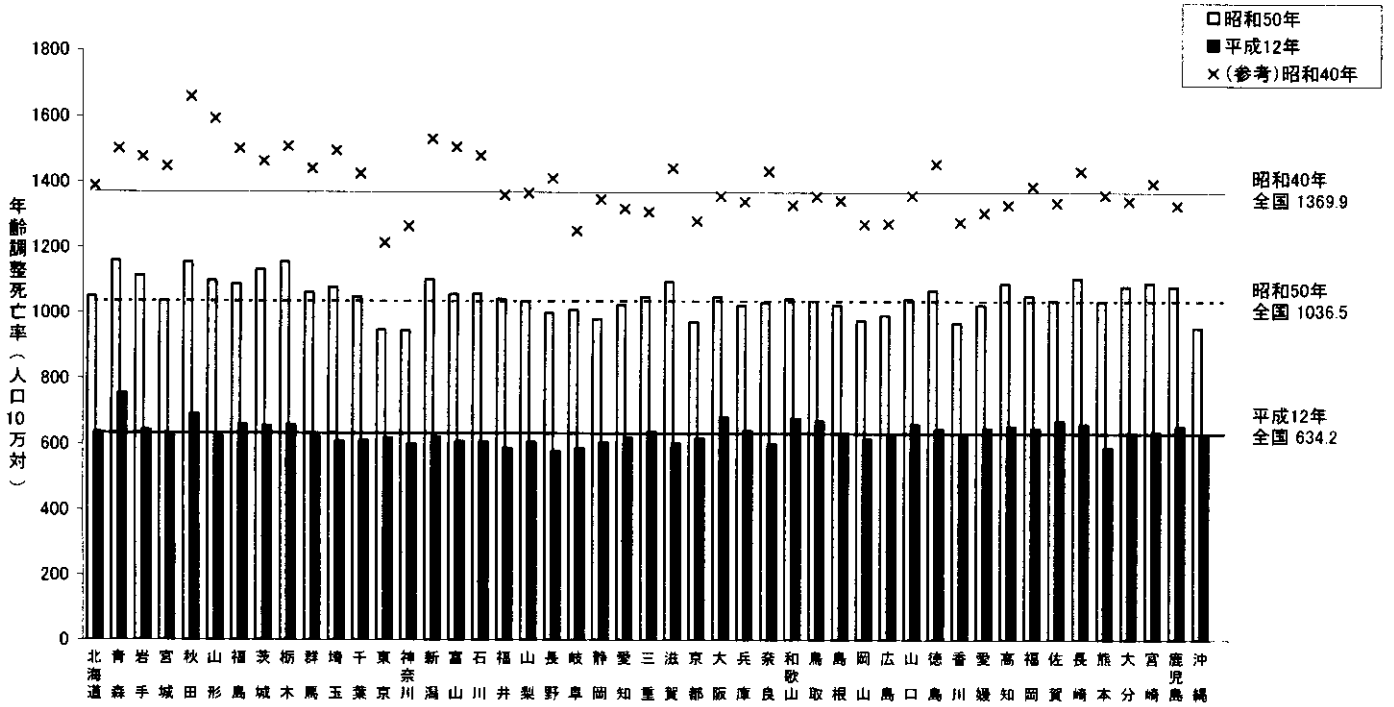
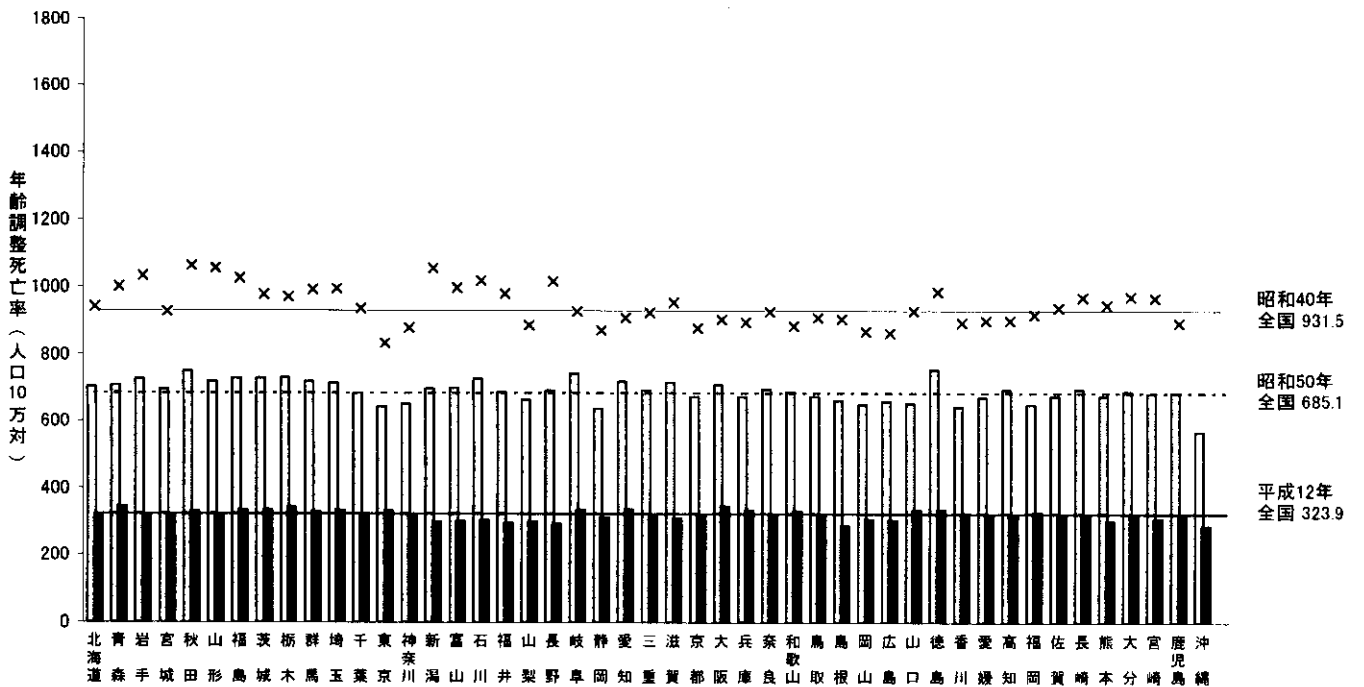


図7 都道府県別年齢調整死亡率の年次比較  
—昭和50年・平成12年—

男



女



注：昭和40年には沖縄を含まない。

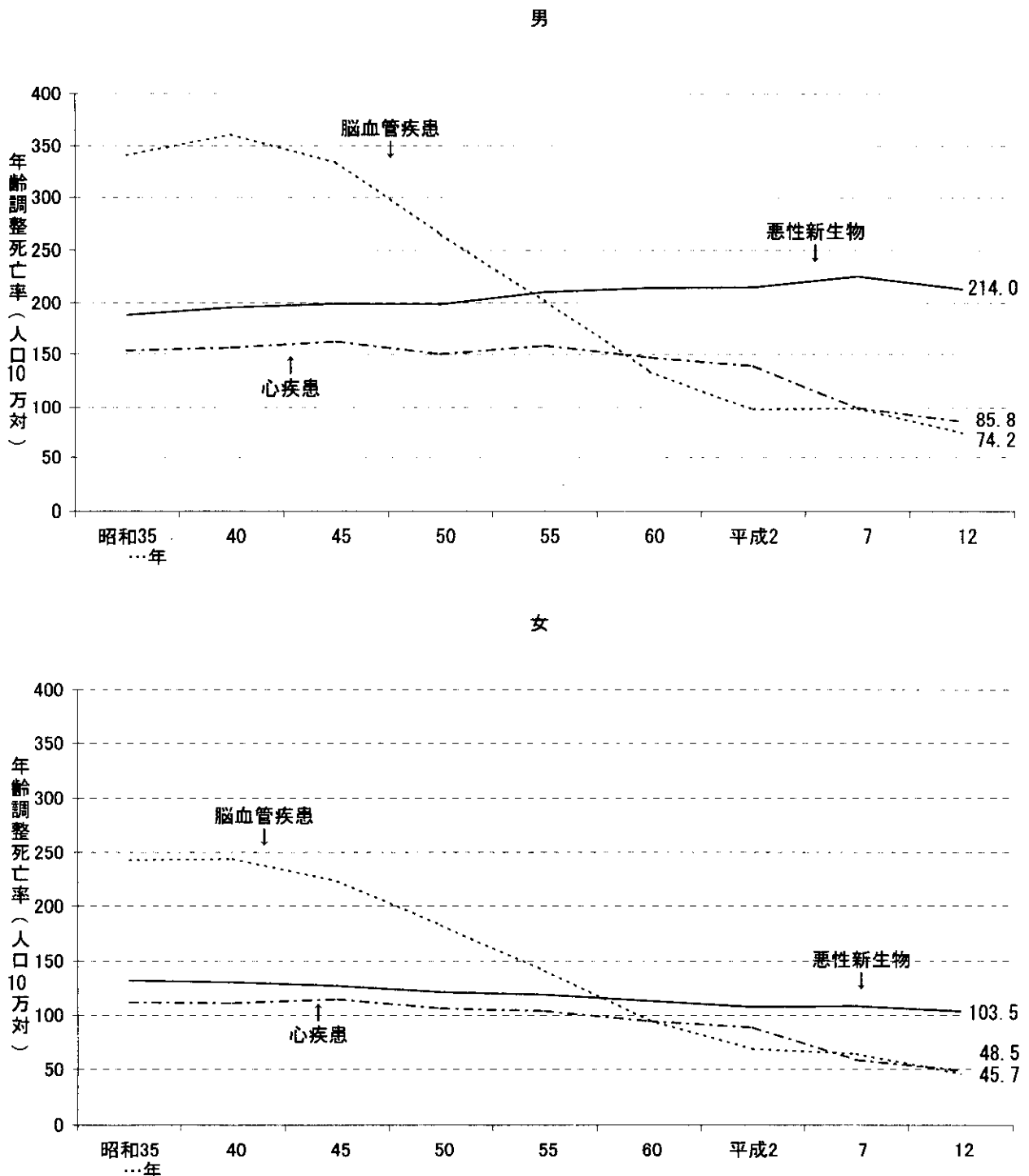
### 3. 三大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）による死亡の状況

#### (1) 三大死因による死亡の状況の年次推移

平成12年の死亡率をみると、悪性新生物は男214.0、女103.5、心疾患は男85.8、女48.5、脳血管疾患は男74.2、女45.7となっている。

年次推移をみると、男の悪性新生物を除き、すべて低下傾向にあり、特に脳血管疾患は昭和40年をピークに大幅に低下している。（図8）

図8 三大死因の年齢調整死亡率の年次推移



注：平成2年から平成7年にかけて、心疾患の死亡率が低下し、脳血管疾患の死亡率が上昇した理由として、ICD-10の適用と死亡診断書の改正の影響があげられる。

### (3) 道府県別にみた心疾患による死亡の状況

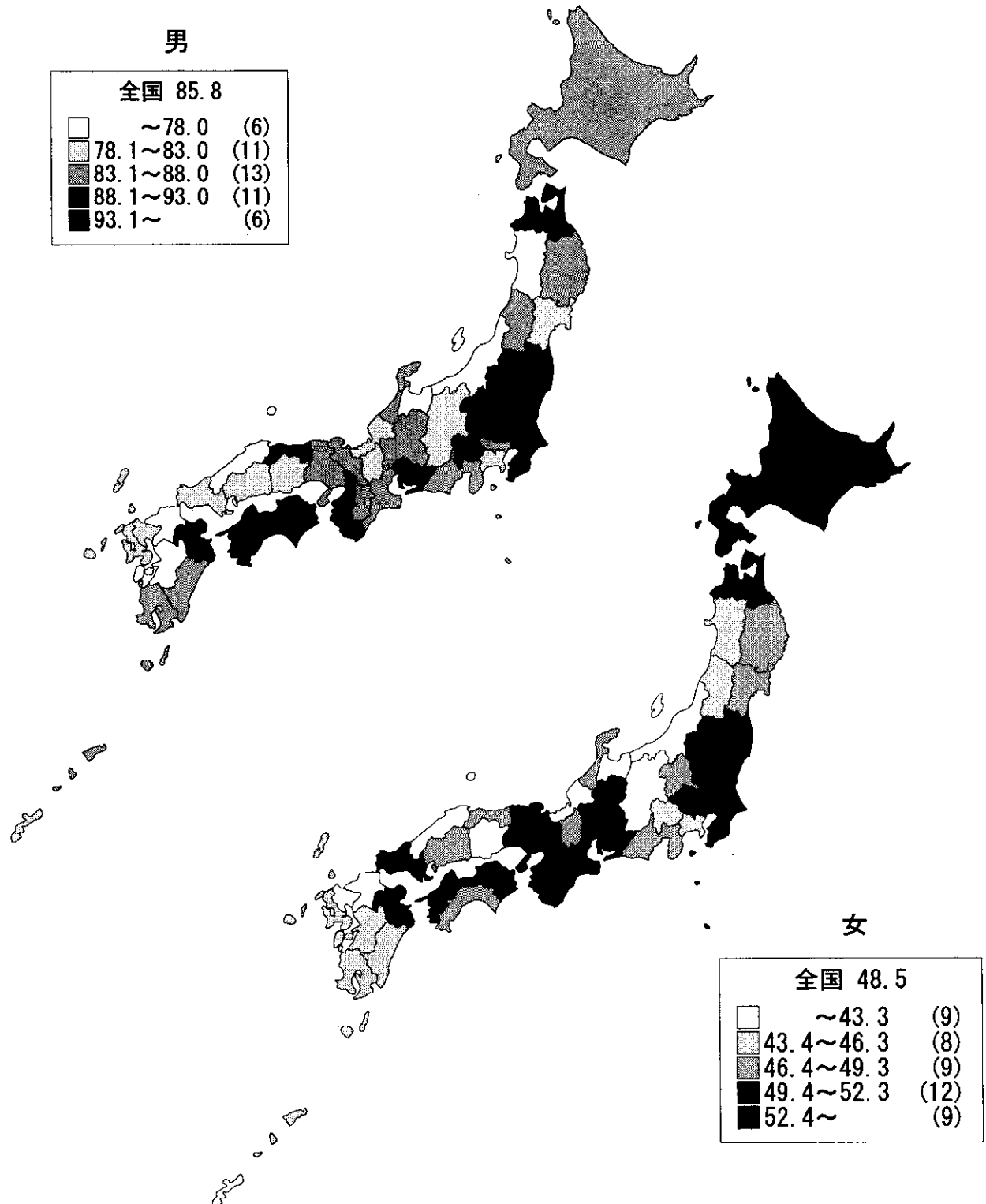
#### ①平成12年の状況

心疾患の死亡率は、男85.8、女48.5となっている。男女とも日本海側で低く、近畿、関東で高い傾向がみられる。

男の死亡率の低い県は福岡、島根、富山、秋田、熊本等となっており、高い県は青森、和歌山、愛媛、福島、高知等となっている。

女の死亡率の低い県は沖縄、長野、島根、富山、新潟となっており、高い県は愛知、千葉、栃木、埼玉、和歌山等となっている。(図11)

図11 心疾患の都道府県別年齢調整死亡率 -平成12年-



②年次比較

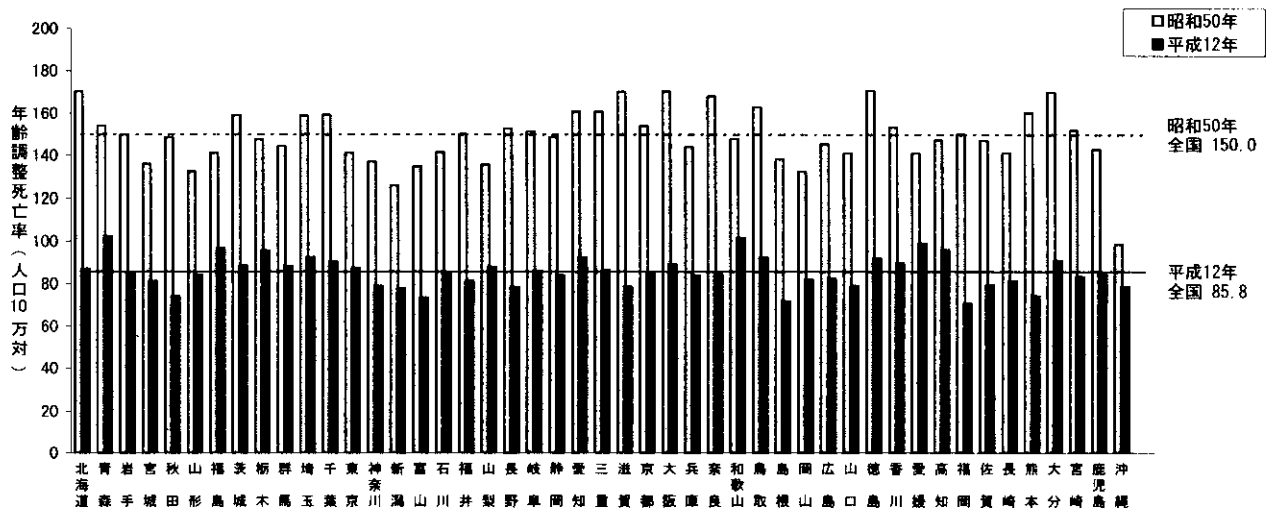
心疾患について、昭和50年と平成12年の死亡率を比較すると、全国では男は150.0から85.8、女は106.3から48.5と低下している。

また、男女とも全都道府県で低下している。(図12)

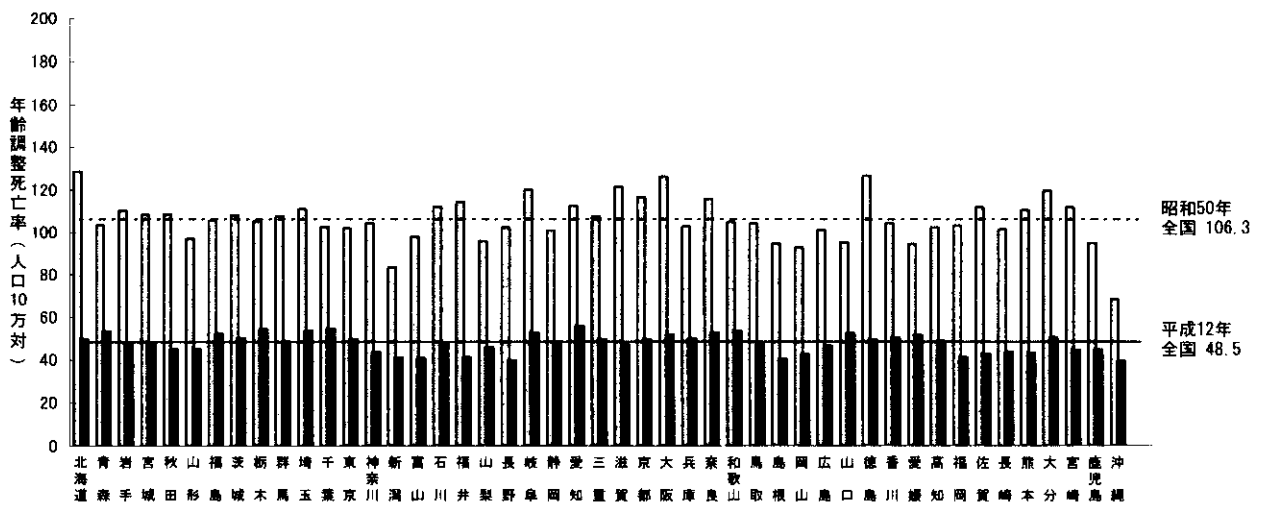
図12 心疾患の都道府県別年齢調整死亡率の年次比較

—昭和50年・平成12年—

男



女



(4) 都道府県別にみた脳血管疾患による死亡の状況

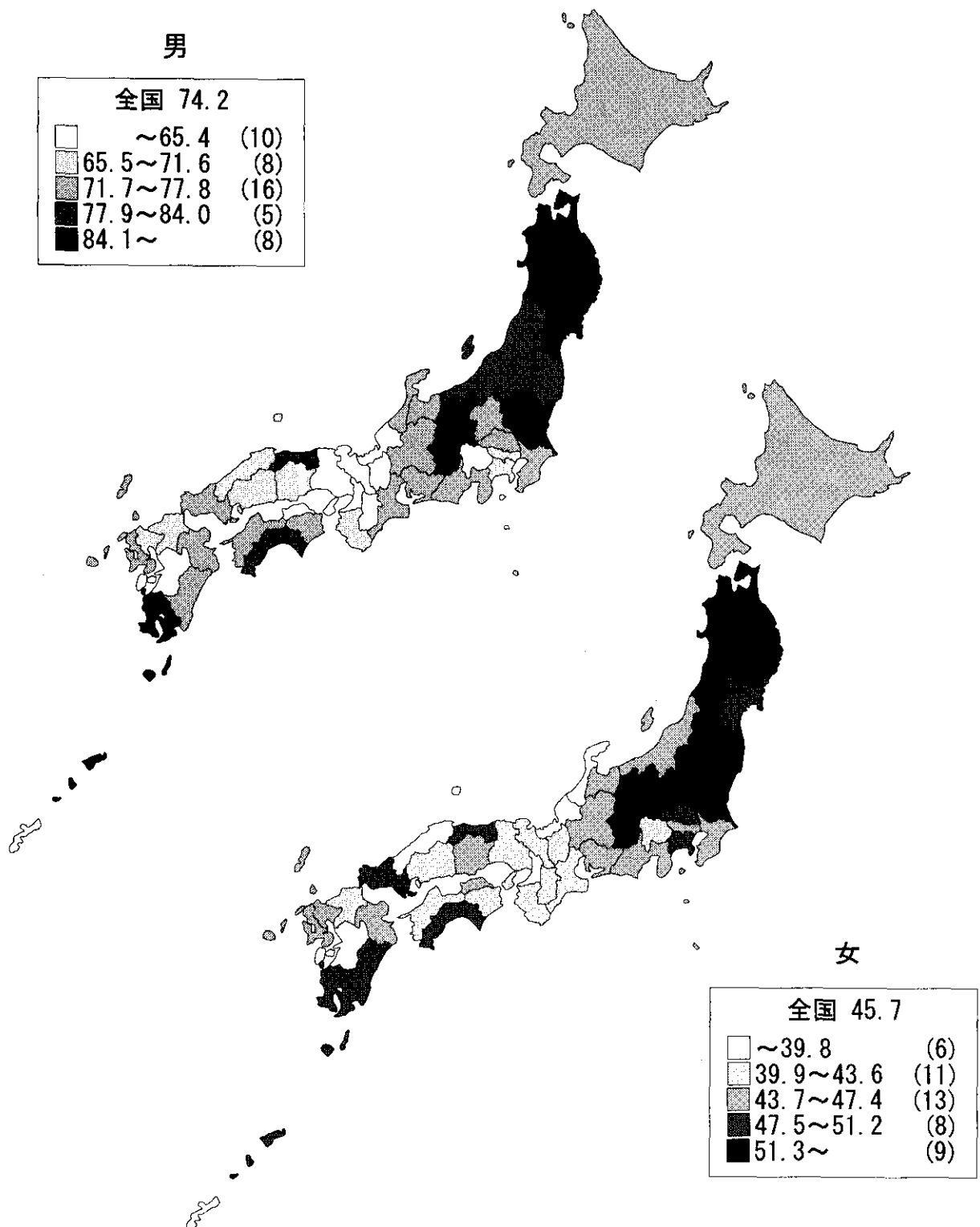
①平成12年の状況

脳血管疾患の死亡率は、男74.2、女45.7となっている。男女とも各都道府県の差は小さいが西日本に低い県が多く、関東北部、東北で高い傾向がある。

男の死亡率の低い県は福井、奈良、滋賀、大阪、京都等となっており、高い県は青森、岩手、秋田、栃木、長野等となっている。

女の死亡率の低い県は沖縄、福井、島根、大阪、石川等となっており、高い県は秋田、栃木、茨城、福島、群馬等となっている。(図13)

図13 脳血管疾患の都道府県別年齢調整死亡率 ー平成12年ー



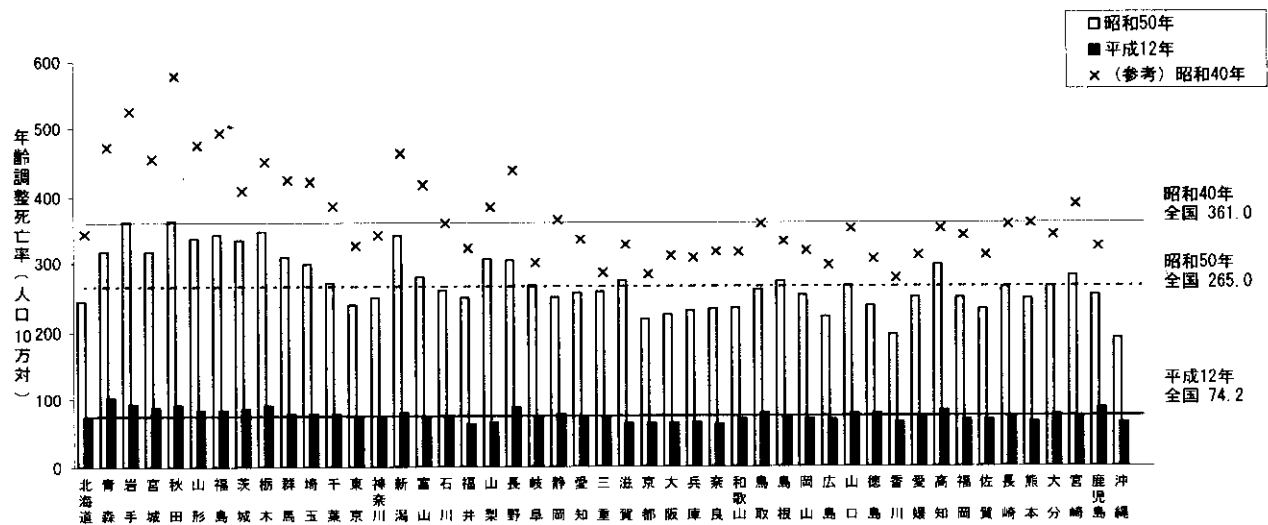
②年次比較

脳血管疾患について、昭和50年と平成12年の死亡率を比較すると、全国では男は265.0から74.2、女は183.0から45.7と男女とも大きく低下している。

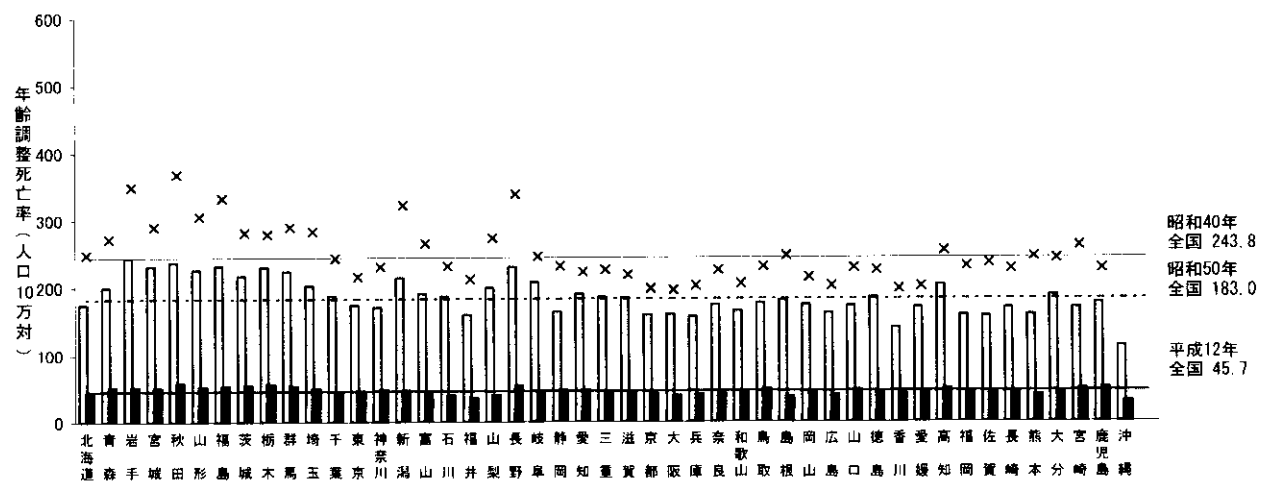
また、男女とも全都道府県で低下している。(図14)

図14 脳血管疾患の都道府県別年齢調整死亡率の年次比較  
—昭和50年・平成12年—

男



女



注：昭和40年には沖縄を含まない。

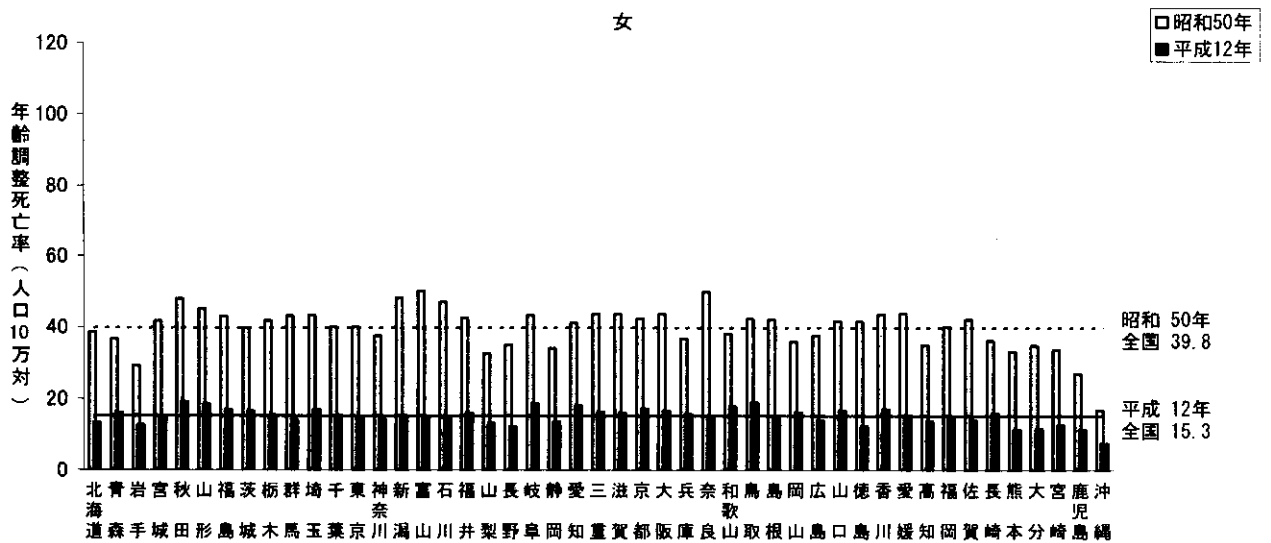
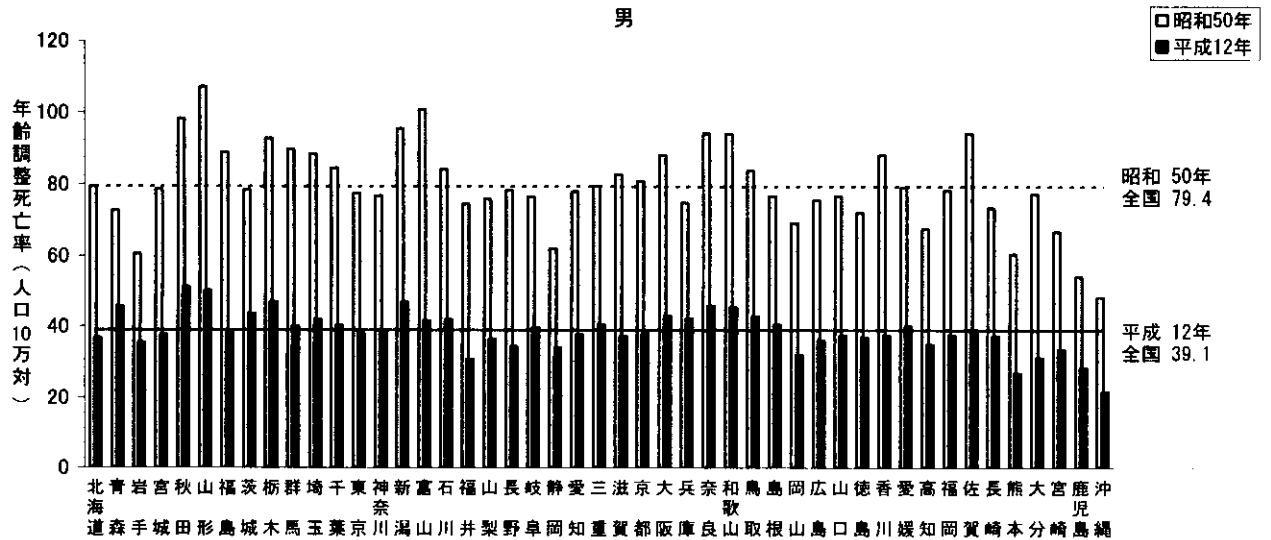


#### 4. 各死因による死亡の状況（都道府県別）

##### (1) 胃の悪性新生物

- ・平成12年には九州南部で死亡率の低い県が多い。
- ・昭和50年と平成12年を比較すると、全都道府県で男女とも低下している。

図15 胃の悪性新生物の年齢調整死亡率の年次比較 -昭和50年・平成12年-



胃の悪性新生物

都道府県	年齢調整死亡率（人口10万対）			
	男		女	
	昭和50年	平成12年	昭和50年	平成12年
全 国	79.4	39.1	39.8	15.3
北 海 道	79.4	36.9	38.6	13.4
青 森 県	72.6	45.8	36.7	16.2
岩 手 県	60.7	35.6	29.2	12.9
宮 城 県	78.6	37.9	41.8	15.2
秋 田 県	98.4	51.5	48.1	19.2
山 形 県	107.3	50.4	45.3	18.5
福 島 県	89.1	38.5	43.2	17.0
茨 城 県	78.5	43.8	39.9	16.6
栃 木 県	93.0	47.2	42.0	15.6
群 馬 県	89.9	40.2	43.4	14.3
埼 玉 県	88.6	42.1	43.6	17.1
千 葉 県	84.6	40.4	40.1	15.4
東 京 都	77.5	38.2	40.1	15.2
神 奈 川 県	76.8	39.2	37.6	14.5
新 潟 県	95.7	47.1	48.5	15.4
富 山 県	101.0	41.7	50.2	15.2
石 川 県	84.2	42.1	47.2	15.0
福 井 県	74.5	30.7	42.7	16.1
山 梨 県	75.9	36.5	32.6	13.4
長 野 県	78.3	34.5	35.1	12.3
岐 阜 県	76.6	39.9	43.5	18.8
静 岡 県	62.2	34.0	34.1	13.8
愛 知 県	78.0	37.8	41.3	18.3
滋 賀 県	79.6	40.7	43.9	16.4
京 都 府	82.9	37.3	43.8	16.1
大 阪 府	81.0	38.1	42.6	17.3
兵 庫 県	88.2	43.2	43.8	16.7
和 歌 山 県	74.9	42.4	36.8	15.9
鳥 取 県	94.4	46.1	50.0	15.3
島 根 県	94.2	45.7	38.2	18.0
島 根 県	83.9	43.0	42.5	19.1
取 根 県	76.8	40.7	42.2	14.5
山 口 県	69.3	32.0	36.0	16.3
徳 島 県	75.6	36.2	37.7	14.1
香 川 県	76.8	37.6	41.8	16.8
愛 媛 県	72.2	37.0	41.7	12.6
高 知 県	88.3	37.5	43.7	17.2
福 岡 県	79.1	40.2	44.0	15.5
佐 賀 県	67.7	35.0	35.0	13.9
長 崎 県	78.3	37.6	40.3	14.8
大 分 県	94.4	39.2	42.3	14.3
熊 本 県	73.4	37.3	36.2	16.0
宮 崎 県	60.6	26.8	33.1	11.6
鹿 児 島 県	77.3	31.2	34.9	11.8
沖 縄 県	66.9	33.5	33.8	12.9
鹿 児 島 県	54.3	28.4	27.1	11.6
沖 縄 県	48.5	21.7	17.0	7.7